

二南中だより



学校教育目標
・自ら学ぶ人
・心豊かな人
・健やかな人
「心をカタチに」

江東区立第二南砂中学校 学校便り 令和8年6月17日 発行第3号

<https://2nan-chu.koto.ed.jp/>

スポーツ界から「学ぶ」2026

校長 塩野 恵

【紹介します! 2026/2.4 朝日新聞13版 15 五輪引用】

科学と一緒に 技磨く



カーリング女子日本代表「フォルティウス」を、**データの力が支えている**。鍵を握っているのは、AI(人工知能)研究者の北海道大学・山本雅人教授だ。カーリング分析を2018年ごろから始め、23年からはフォルティウスの技術顧問を務めている。ボードゲーム「バックギャモン」の日本選手権を制した戦略家であり、札幌の社会人チームでプレーするカーリング経験者でもある。

山本教授が中心となって開発してきたのが、カーリング専用AI「じりつくん」だ。男女トップチームのプレーデータをもとに膨大なシミュレーションを行い、局面ごとの「期待勝率」を予測。最も勝率を高めるショットを示すことで、戦略判断に貢献できるという。予算の制約などから、**カーリングは他競技に比べてAIやセンサーといった最新技術の導入が遅れているといい、「風穴を開けたい」との思いが山本教授の背中を押している。**

カーリングは「氷上のチェス」とも表現される。ただ、刻々と変わる氷の状況、氷面をこする「スweep」の強さ、ストーンの癖といった要素が結果を大きく左右するため、山本教授は「思った通りに指せない将棋やチェス」に例える。**トップ選手の一投一投を再現するのは難しく、現時点では「序盤の宝石」の研究や、公開データを独自にまとめた傾向分析、戦術整理が支援の中心だという。**(途中引用文章省略)

データと向き合ったことで、攻守のバランスが整いつつあるという。試合中は選手たちがデータを見ることができないため、ミーティングでの活用が中心になる。最も積極的なのが、小谷優奈だ。相手チームが苦手とする状況をデータから引き出す。「ただの自信ではなく、数字の裏付けがある。より強い気持ちで戦える」と小谷選手。(記者:清水優志)



二南中生のみなさん。6月は『ふれあい月間』です。東京都教育委員会は、「心の東京革命」教育推進の一環として、6月・11月・2月をいじめや犯罪・非行防止を目的とし、「ふれあい月間」特に、いじめ防止強化月間と定めています。本校でも、これをいじめ根絶の指導強化月間とし、いじめ防止の授業(年間を通じて実施)や、アンケートを行い、いじめゼロに向けて取り組みます。**いじめは、絶対に許されない行為**です。相手が心身の苦痛を感じたら、それは「いじめ」です。6月も、よく考え・判断し、行動していきましょう。

【保護者・地域の皆様へ】引き続き、様々な学校教育活動に際し、御支援・御協力をお願いいたします。また、**御家庭における健康管理の対応**についても、ひきつづきお願いいたします。

